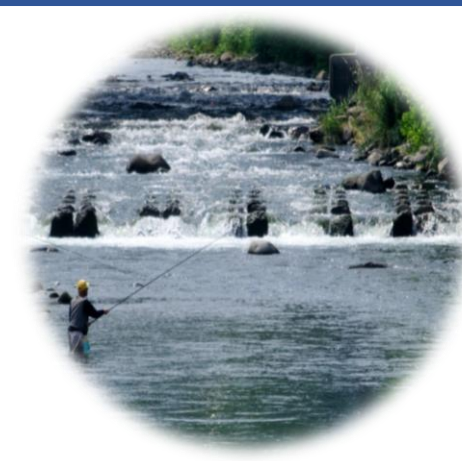




これからのオーガニックなまちづくり ～10年後の地域循環共生圏

小田原市環境部環境政策課 石渡陽介

2025年10月31日
かずさアカデミアホール



小田原市の地域特性

- 人口約19万人／神奈川県西部の中心都市（戦国時代の城下町・江戸時代の宿場町）
- 首都圏にありながらひとつらなりとなった森里川海／自然環境と調和した生業・文化・歴史を基盤とする。
- 2011年以降、気候変動対策、とりわけ再生可能エネルギーの導入拡大による持続可能なまちの実現を目指し取組を展開。

小田原の地域特性

箱根連山に連なる豊かな山林

重要里地里山に選定された久野地域の里山



小田原のシンボル
・小田原城



市の南側に構える雄大な相模湾



小田原漁港で水揚げされる魚



地域の多彩なプレイヤー

位置：新幹線で東京駅から 35分

地勢：黒潮が流れる海に面し、背後が山地に囲まれているため、年平均で気温16℃、降雨量2,000ミリ前後、温暖で暮らしやすい気候

人口：185,027人
(世帯数：86,326世帯)
令和7年9月1日現在

面積：113.60km²

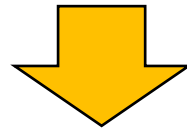
小田原市環境基本計画に掲げる望ましい環境像（第3次環境基本計画）

- 森里川海がひとつらなりとなった豊かな自然環境があり、それらからの恵みを享受してきた。
- これからも将来にわたって、すべての人々が幸福に暮らすため、豊かな自然環境を次世代に引き継いでいく必要がある。
- 豊かな環境の継承のための行動を、生活の質の向上、地域経済の好循環に繋げることで、マルチベネフィットを生み出し、**我慢による環境行動ではなく、すべての人々が環境と共生できる社会を目指す。**

第1次環境基本計画（平成10年～平成23年）望ましい環境像
良好な環境のもとで、すべての人々が心の豊かさを感じられ、
健康で幸福な生活を営むことができる郷土（ふるさと）



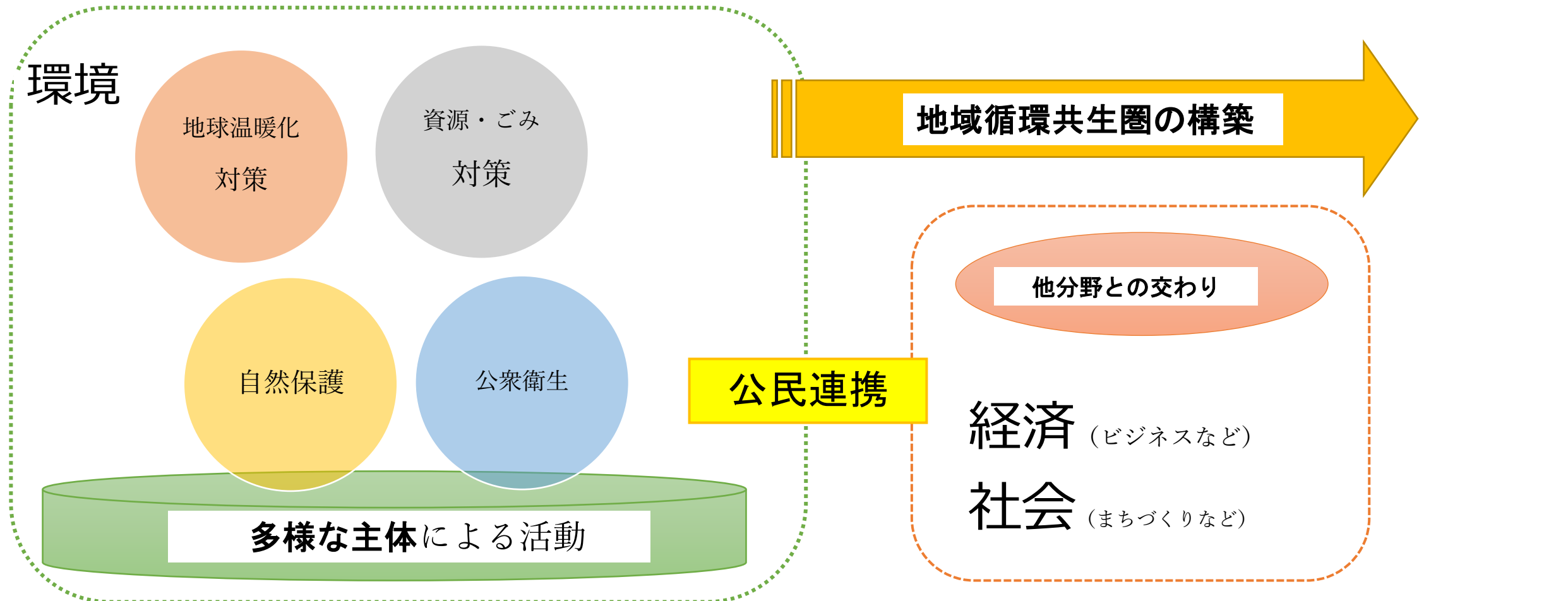
第2次環境基本計画（平成23年～令和4年）望ましい環境像
良好な環境を守り育て 豊かな水と緑あふれる
持続可能な環境共生都市 小田原



第3次環境基本計画（令和4年～令和12年）望ましい環境像
森里川海の恵みを未来へ継承する
持続可能な環境共生都市 小田原

第3次環境基本計画における取組の方向性

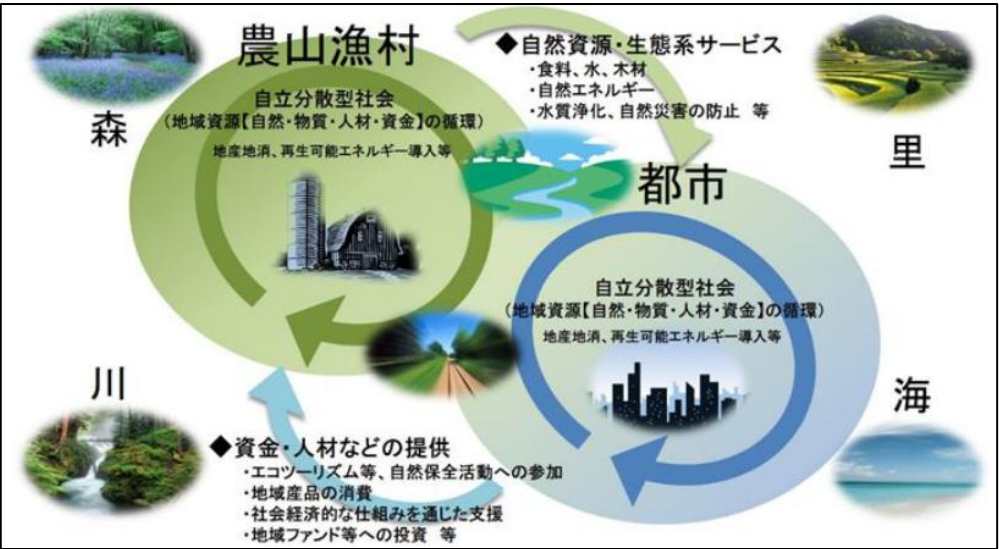
- 分野別の取組を進める土台として、**多様な主体**による環境活動が重要
- 持続可能なものとするため、あらゆる地域資源を有効活用する“**地域循環共生圏の構築**”の考え方を取り入れ、環境活動が公民連携による経済活動や、社会活動につながる取組とする。



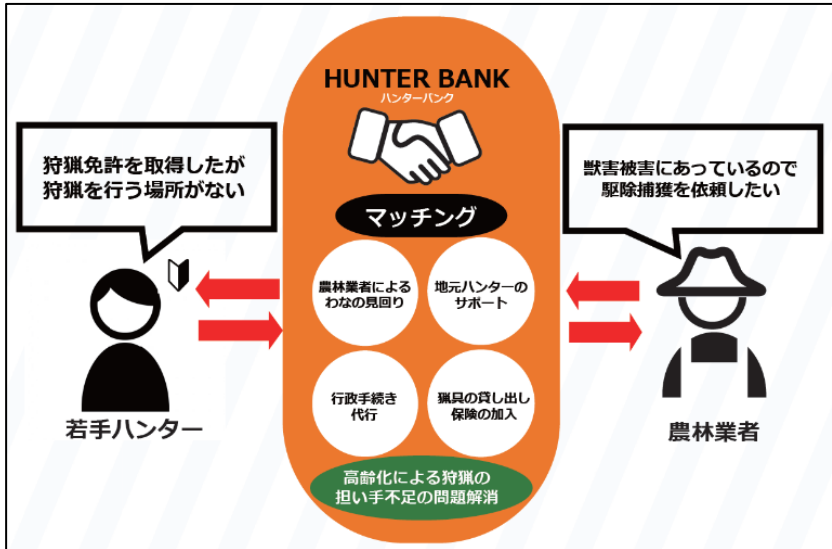
地域循環共生圏の構築・他分野との交わり

- 地域の特性に応じて資源を補完し支え合い、環境・経済・社会が統合的に循環し、地域の活力が最大限に発揮されること。
- 地域内だけでなく地域外の関係人口と連携し、地域課題を魅力あるコンテンツに転換することで、豊かな環境を持続的に受け継ぎ、地域の発展にもつなげる。
- **環境 × ●●**とし、あらゆる分野で環境に関わることで、相乗効果を生み出したり、様々な行動が環境活動に繋がるような身近なものとする事で、持続可能なものとなるよう押し進めていく。

【地域循環共生圏のイメージ（環境省HPより）】



【ハンターバンク事業】



●●現在●
名登録

【他分野との交わり】

環境 ×

観光	産業	交通	教育	子育て
防災	デジタル	福祉	健康	楽しみ
など				

望ましい環境像

森里川海の恵みを未来へ継承する
持続可能な環境共生都市
小田原

6つの施策と目標

共通施策	施策1 地域循環共生圏の構築
	地域循環共生圏の構築を目指し、課題の価値化や人と資金の循環創出を進めます。
	施策2 多様な主体の育成・活躍の推進
	豊かな環境を継承するため、多様な主体による参加と協働、人づくりを進めます。
	施策3 脱炭素
	脱炭素社会の実現に向けて、地域社会と暮らしの転換を図ります。
分野別施策	施策4 資源循環
	5Rを推進するとともに、循環経済への移行を進め、省資源・循環型社会の構築を目指します。
	施策5 自然共生
	5Rを推進するとともに、循環経済への移行を進め、省資源・循環型社会の構築を目指します。
	施策6 生活環境保全
	一人ひとりが安心して快適に暮らせるまちづくりを目指し、良質な生活環境を守ります。



取組の柱 12

1-1 環境資源の魅力発信
1-2 先導的事業推進
2-1 環境学習・環境活動の推進
3-1 地球温暖化対策の推進
3-2 エネルギーの地域自給の推進
4-1 ごみの減量化・資源化の推進
4-2 ごみの適正処理
5-1 生態系の維持保全
5-2 森里川海の保全・活用
6-1 快適な街の維持保全
6-2 美化の推進と衛生環境の保持
6-3 公害対策

地域循環共生圏の構築に向けた取組①（第3次環境基本計画抜粋）

【目標】 地域循環共生圏の構築を目指し、課題の価値化や人と資金の循環創出を進めます。

【2030年に目指す姿】

- 豊かな自然環境の恵みである地域資源やその魅力が市内外の人々に伝わっている。
- 市民のみならず首都圏等から多くの方が関わり、課題だったものに価値を見出し、公民連携による多種多様な体験コンテンツや産品が創出されている。
- 多くの方が小田原の森里川海に触れる体験をしている。

【取組の柱1-1】 環境資源の魅力発信

- ・ 森里川海ブランドの確立
- ・ 観光、農業、林業、漁業等との連携
- ・ 地域資源を生かしたコンテンツ創出

▼市内イベントへの出展



おだわら環境志民ネットワーク主催
イベント「おだわらグリーンマルシェ」

市内既存イベントへの出展による活動PR

【取組の柱1-2】 先導的事業の推進

- ・ 環境保全活動に係るプラットフォーム機能の強化
- ・ 環境課題への対応（荒廃竹林解消、獣害対策）

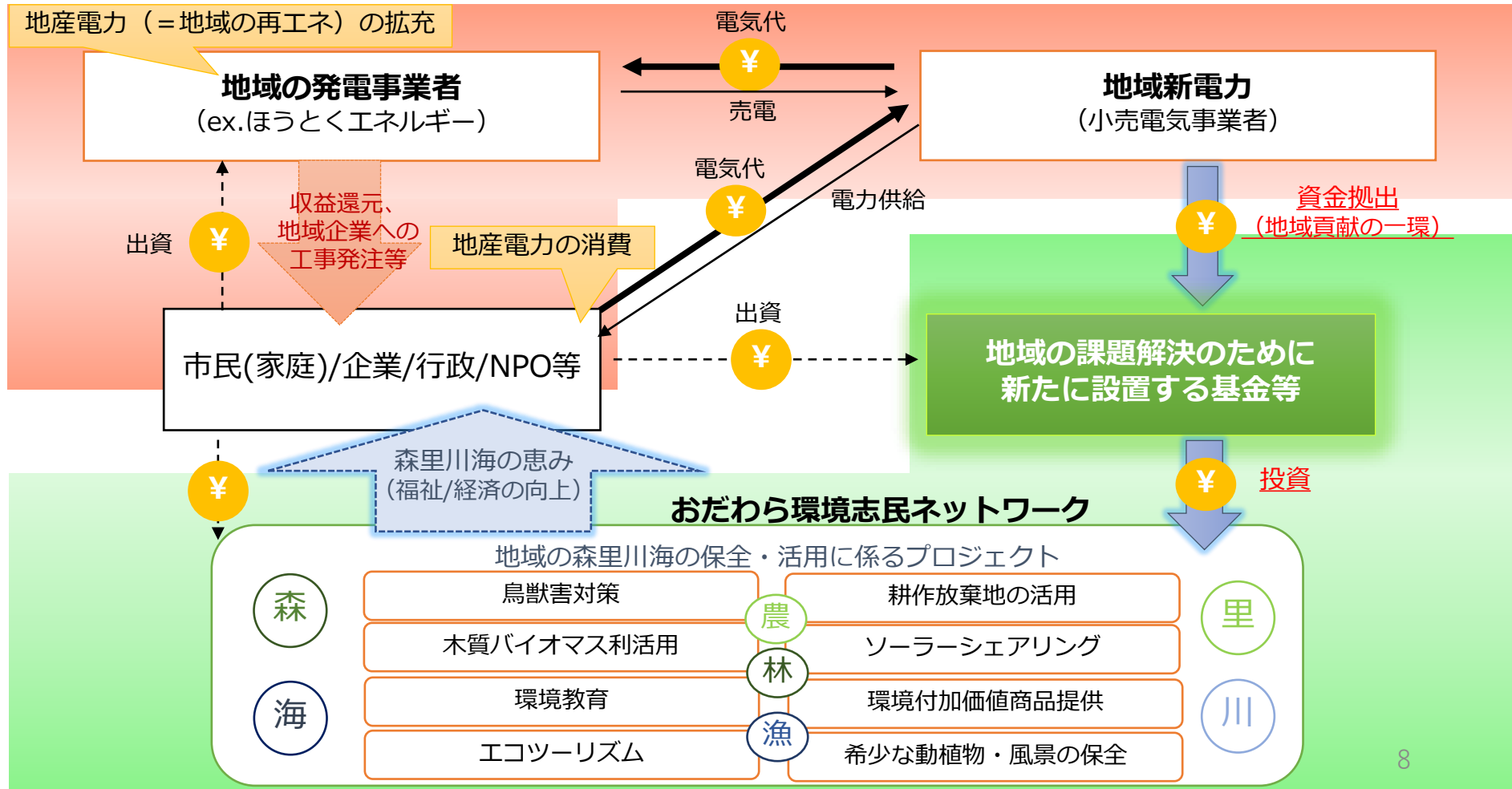
▼荒廃竹林の整備、伐採竹の活用としてのメンマ

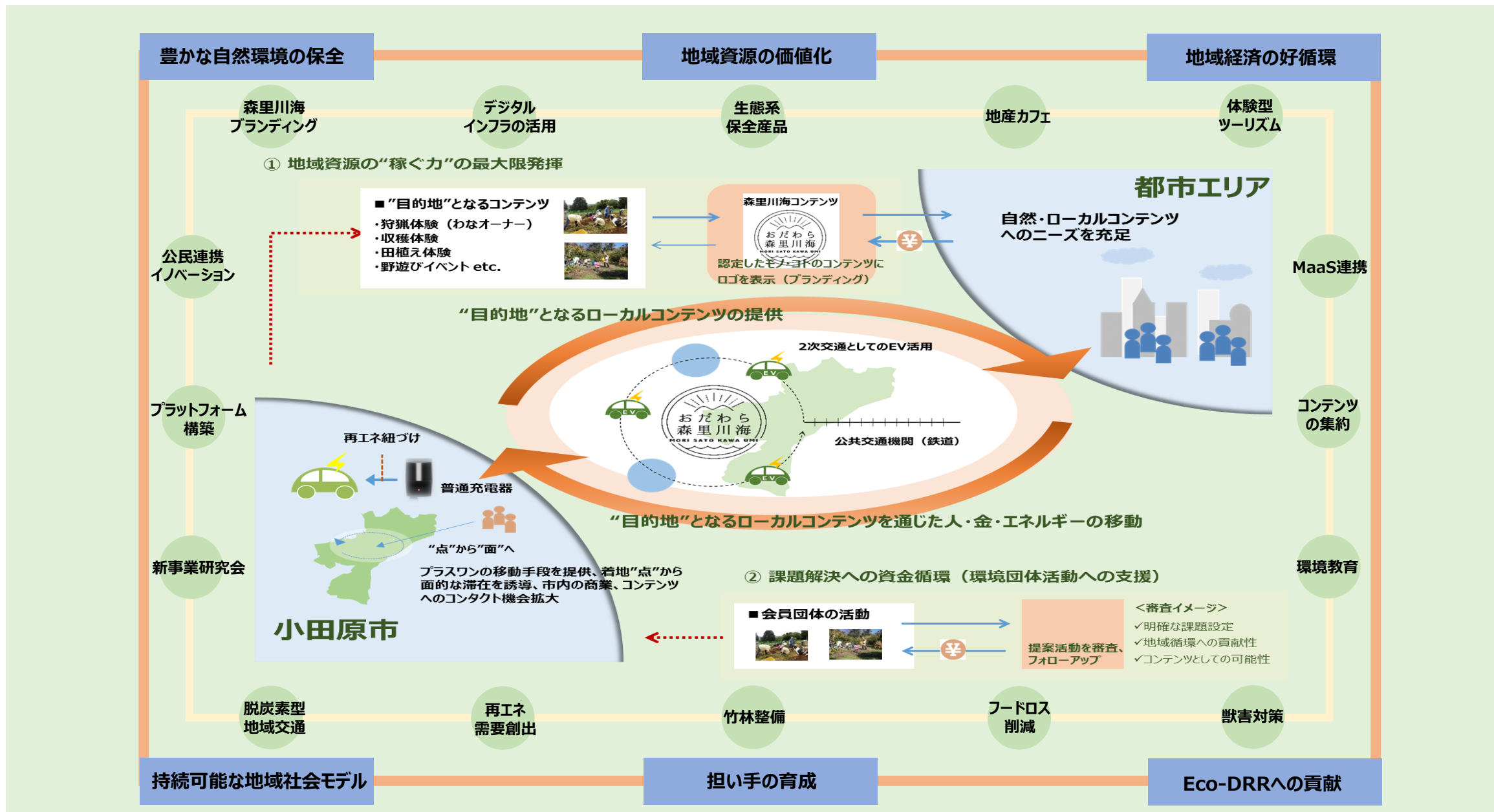


▼獣害の捕獲時通信システムの開発



- エネルギーの地産地消により、この資金を地域で循環させ、森里川海の保全・活用に投資することで、その恵みにより市民の福祉等を向上させ、更なるエネルギーの地産地消につなげる好循環を生み出す。
- 再生可能エネルギーの普及促進・森里川海の保全・経済の好循環・市民福祉の向上を同時達成する仕組み。



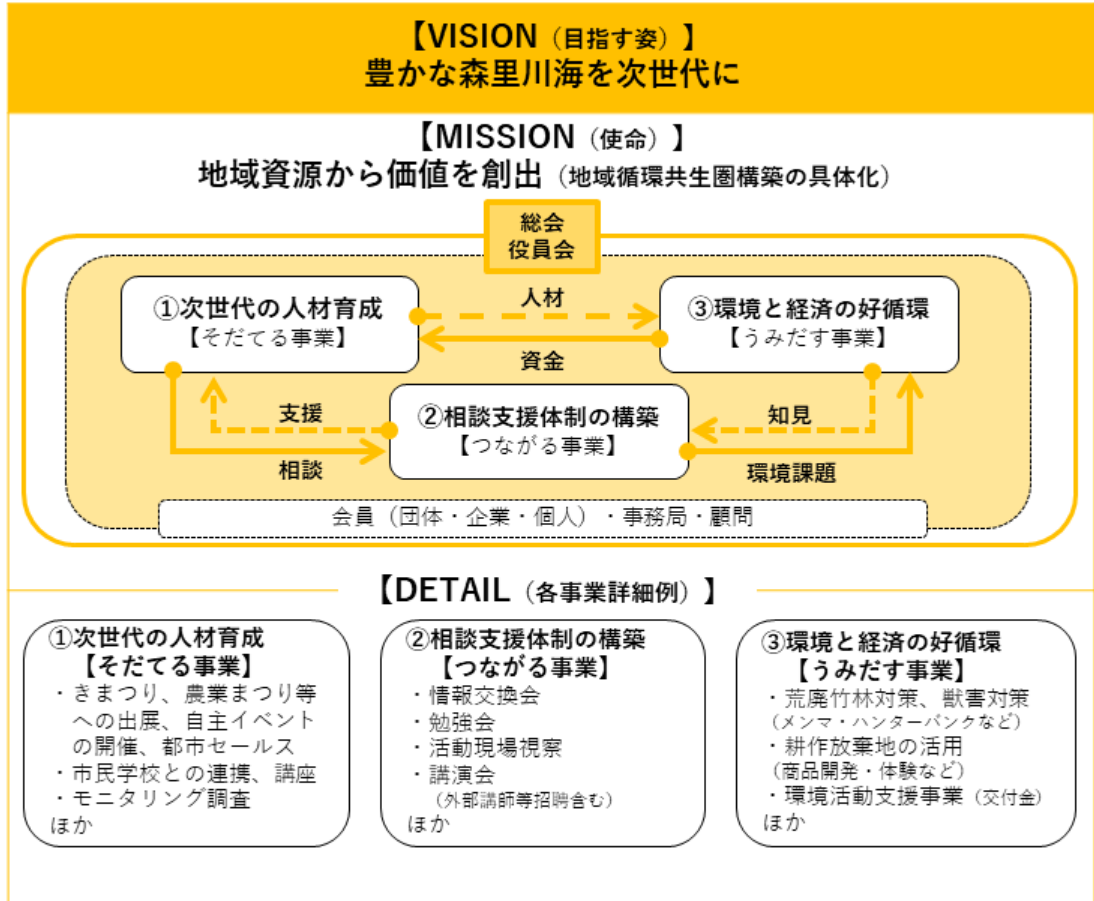


小田原市におけるステークホルダーとの連携による取組

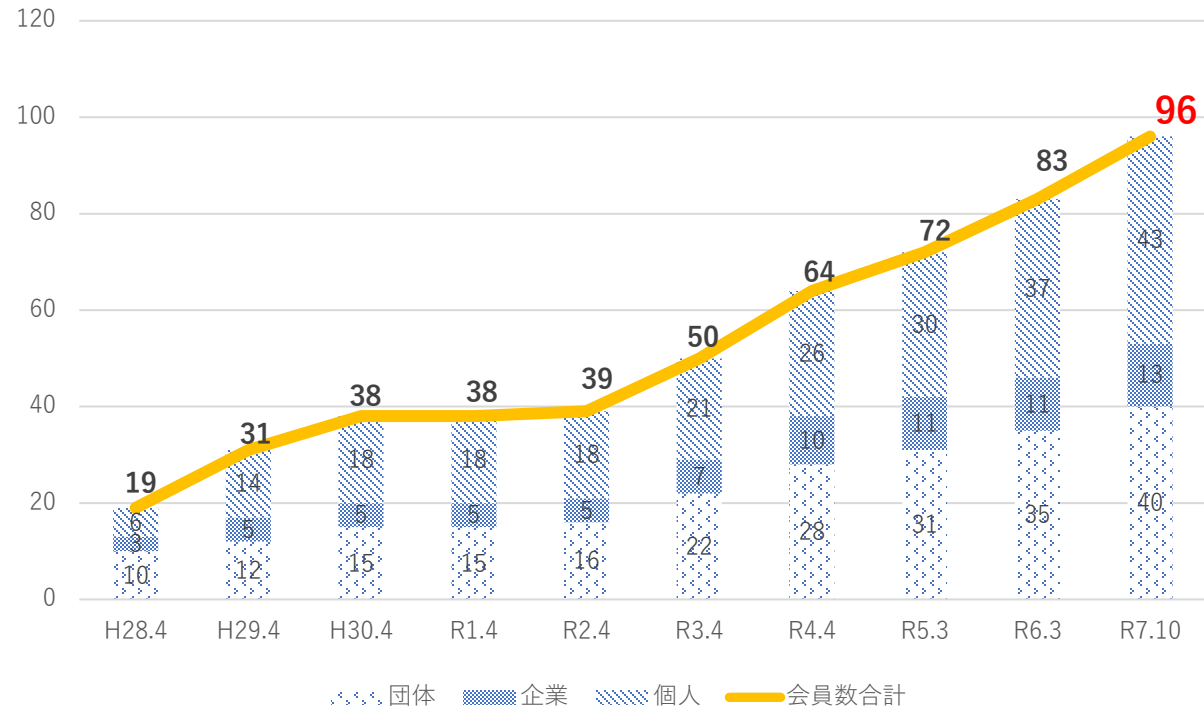
～おだわら環境志民ネットワークによる地域循環共生圏の構築～

おだわら環境志民ネットワークについて

- 地域の環境団体・個人等の活動を支援し、活性化させるためのプラットフォーム（平成28年3月設立）
- 行政と両輪で市内全域の環境保全活動を束ね、中核的な担い手となることを目指す
- 96会員所属（令和7年10月時点）内訳：団体40・企業13・個人43



会員数推移



※第6次小田原市総合計画やSDGsの達成目標等を踏まえ、2030年までに「地域循環共生圏（ローカルSDGs）」の構築に係る主たる担い手を目指し、各取組を進める。

おだわら環境志民ネットワークによる取組①（環境活動支援事業）

自然環境を豊かな状態で次世代へ継承するため、多様な主体の連携による自然環境の保全に資する取組、また、それらを担う人材の育成や活動資金の確保に資する取組等をより一層促進していくことを目的として、地域循環共生圏の構築に係る新たな挑戦や価値創造を中心に支援

< 直近3年の取組実績 >

令和5年度

- 1 耕作放棄地で生（いき）ごみ堆肥を活用したハーブ栽培の取組～作業体験ワークショップの推進、成果物の用途拡大～
- 2 おだわら竹あかりプロジェクト「製作者育成会」の設置
- 3 ご当地ラベルによる地元自家焙煎珈琲とお茶の贈答用ブレンドパック
- 4 段ボールコンポスト資材の地域内調達による地域循環共生システムの構築
ー農環福（農業・環境・福祉）連携による地域課題の解決を目指してー
- 5 小田原の竹でメンマを作っちゃおプロジェクト
- 6 林道奥地のニホンジカ捕獲活動
- 7 上曽我圃場地域におけるジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）対策の調査研究

令和6年度

- 1 竹林整備、刈り取った竹の活用、竹の循環
- 2 カワセミの暮らす 日本一きれいなお堀に！
- 3 活動成果品の茶のブランディングと持続可能な農作業への参画体制づくり
- 4 環境啓発マルシェイベント「かなごて流域祭」の開催
- 5 「森塾」～深く森を知りアクションへ！～
- 6 「杜人」の映画上映会と「しぜんとつながる」イベントの同時開催
- 7 竹林整備による竹炭作り、竹細工教室等のイベント開催
ーおだわらの自然を子どもたちにのこし、つなげていくー
- 8 芝桜の植栽・普及活動
- 9 耕作放棄地で生（いき）ごみ堆肥を活用したハーブ栽培の取組～取組の成果物 エッセンシャルオイルの成分調査～

令和7年度

- 1 かなごて流域”耕作放棄地→水稲圃場よみがえり”大作戦
- 2 おだわら竹明かりプロジェクト
- 3 森の手入れをしよう。切った木を使ってみよう。
- 4 たけのこの有効活用、竹林整備、幼竹の順環、刈り取った竹の活用
- 5 「森塾」～シカと森林植生を考える～
- 6 農と地域をつなぐ循環型農コミュニティ「くののば」の立ち上げと、無煙炭化器を用いた炭素固定による環境保全の実践
- 7 頂いた命を無駄にしない、鹿レザーアップサイクル事業
- 8 カワセミの暮らす 日本一きれいなお堀に！

おだわら環境志民ネットワークによる取組②（環境活動支援事業における主な取組事例）

< 取組事例① >

【事業名】
竹林整備、刈り取った竹の活用、竹の循環

【事業概要】
小学生が通える安心、安全な場所づくりと同時に、刈り取った竹をメンマや竹炭にすることで循環させる。



< 取組事例② >

【事業名】
耕作放棄地で生（いき）ごみ堆肥を活用したハーブ栽培の取組～取組の成果物 エッセンシャルオイルの成分調査～

【事業概要】
成果物のエッセンシャルオイルの分析を外部に委託して実施し、小田原産オイルの、価値向上につなげる。



- おだわら環境志民ネットワークにおいて、豊かな森里川海を次世代に引き継ぐため、小田原の自然環境に貢献している商品等を「おだわら森里川海ブランド」として認定。（令和6年度～）
- 認定団体と認定数：10団体・10商品 ※令和6年度実績



おひるね生(いき)ごみハーブ畑
エッセンシャル
オイル

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#生ごみ堆肥化 #耕作放棄地 #廃棄物削減



小田原かなこてファーム
おひるね
みかんジュース

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#荒廃農地 #農業・化学肥料不使用 #地産地消



小田原かなこてファーム
おひるね
みかんの電気

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network



小田原オリーブ園
小田原産オリーブ
加工品

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#低農薬 #化学肥料不使用 #二酸化炭素吸収



Team MAMMA MemMA!
マンマメンマ

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#荒廃竹林 #地産地消 #子育て世代も参加



きらくなのうえん隊 (あきさわ園)
下中玉ねぎ
ドレッシング

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#減農薬 #廃棄物削減 #アップサイクル #教育



ジャパン・マルチハンターズ(株)
小田原の冷凍鹿肉商品

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#獣害 #ジビエ #廃棄物削減 #生態系維持



志村 成則 (志村屋米穀店)
小田原の米 はるみ

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#農薬・化学肥料不使用 #水環境 #休耕田復活



(一社) 茶ラボあしがら
小田原森里茶

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#農薬・化学肥料不使用 #耕作放棄地 #後継者不足

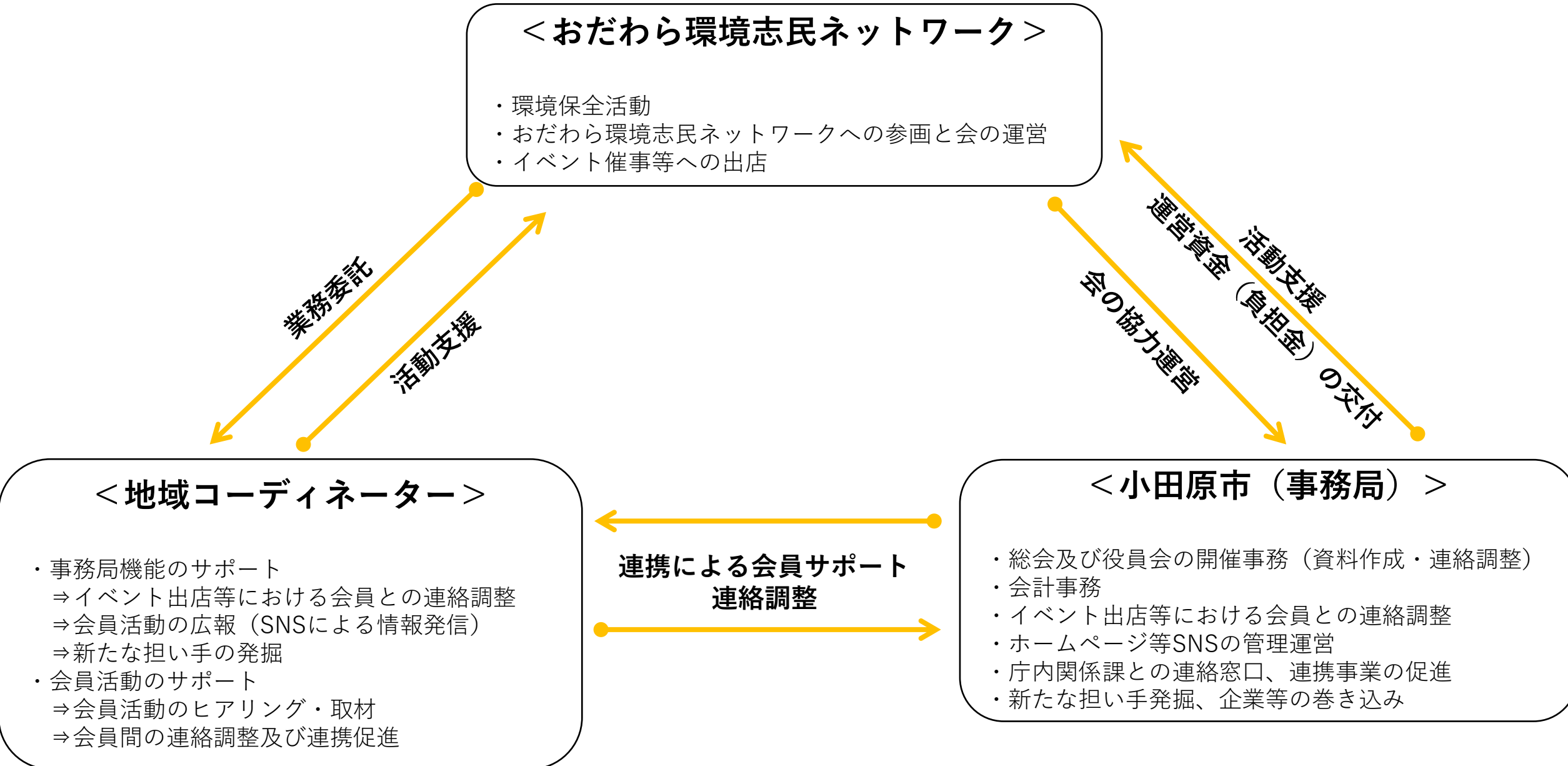


合同会社10decades
梅干し・ねり梅

認定 証
おだわら環境志民ネットワーク
Green Selection

おだわら環境志民ネットワーク
Odawara Environmental Citizens Network

#耕作放棄地 #農薬・化学肥料不使用 #プラごみ削減




おだわら環境志民ネットワークにおける今後の取組について

<現状と課題>

- 会員の増加などにより会員活動に対する想いも多様化する中で、会員間の連携による活動促進や活動の方向性について共通認識を持ちながら取り組むことが重要である
- 会員数は増加しているものの、環境分野以外の人へのPRが重要である（おだわら環境志民ネットワークの活動に対する認知度）

<検討課題>

- 活動の原点に立ち戻った個々の会員活動とおだわら環境志民ネットワークとしての目的を再確認し、活動の方向性を整理する
- 個々の活動を充実させつつ、ネットワークの枠組を活かした持続性のある環境保全活動をどのように実施していくのか
- 活動の持続化に向け、経済性を担保して活動・担い手をサポートしていく仕組みづくり（企業などの巻き込み）



ジャンル分けしたグループによる活動
＜例＞竹（放置竹林）、森林保全、獣害、清掃活動など

活動成果のとりまとめ
⇒活動成果の数値化・見える化



◆環境保全活動団体・おだわら環境志民ネットワークとしての活動意義（活動促進）

◆企業からの金銭的・技術的な支援（経済性を持たせた持続的な取組）

ご清聴ありがとうございました